

三豊市におけるごみ処理の基本的な考え方

三豊市は、まちの将来像を「“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊」と定め、市民との協働体制の確立と地域内分権を進めながら、本市ならではの新たな“豊かさ”を常に創造・発信するまちづくりに挑戦しています。

環境・生活分野においては、加速する地球温暖化という憂慮すべき事態を踏まえ、「豊かな自然と共生し、環境にやさしいまち」を基本目標とし、循環型社会の形成に向け、物を大切にし、自然を大切に作る心によって支えられた三豊市にふさわしいごみ処理や収集・リサイクル体制の充実を図り、市民への啓発活動を推進しながら、ごみ分別の徹底や3R運動の促進、不法投棄の防止等に努めるとともに、市内にあるバイオマス資源の有効な利活用によるバイオマスタウンの構築を目指します。

バイオマスタウン構想の施策の取り組み姿勢は、「民間でできることは民間に」という考え方を基本とし、行政はそのサポート役として、産業振興、地域振興そして雇用の拡大をめざす、総合的なまちづくりとして取り組むこととしています。

ごみ処理も同様であり、これまでの研究・検討と、それによって得られた貴重なデータに裏づけされた「ごみはすべて資源である」という考え方を原点に、いわゆるごみ処理ではなく、「新しい産業と雇用機会の創出」という視点を持ち、資源として循環させるという新しい理念と、最も合理的に処理するというコストとの両面から総合的に検討し、市民との合意形成を図らなければなりません。

事業展開の基本的な考え方は、「家庭から出される燃えるごみはバイオマスである」と捉え、「バイオマスタウン構想」により、これをエネルギーとして循環させる方式によって行います。

条件は、臭気対策の徹底、処理水排出量の抑制、市財政の中長期的見通しに影響を与えない処理コストを基本とします。

実現化の手法については、「技術は民にある」ことを前提に三豊市の理想を実現できる、民間企業の技術や資金の可能性をさぐり、その取り組みを支援することにより民間活力を最大限に導入し、地域産業の育成・振興を図ります。

今後は、民間企業からの提案も含めた具体的な情報収集を進め、市議会にもご検討をいただきながら「手法」を決定できるよう取り組んでまいります。

市民の皆様方には、三豊市のごみ処理事業が、単にごみ処理でなく、総合的なまちづくり施策であることをご理解いただき、共にまちづくりのパートナーとしてご参加いただけるようお願いをいたします。

平成22年9月21日

三豊市長 横山 忠始